

村長との意見交換会～第二幕～

参加者の多くは協議会のメンバーではあったものの、県の職員、村出身の民間企業戦士、各新聞社担当記者等々が関心を示して頂き、夜の時間にもかかわらず会場に参集。村長を交えての意見交換の

前回行われた意見交換会の場で持ち越しとなったテーマについて、再び村長を交えて討論する機会を頂き、第一幕となる意見交換会が9月16日に行われました。



真剣なまなざしで村長の意見に耳を傾ける参加者

場を持つことができました。今回の大きなテーマとしては住民やU・Iターン移住者への支援についてあるいは、村の教育や教育に対する支援のあり方などについて意見交換を行い、さまざまな角度から意見を述べ、村としての展望や村長自身が胸の中で温めてきた思いや政策案なるものを遣り取りさせていただきました。

移住を促進し、村内で暮らしを立ててゆけるだけの雇用とバランスの取れた賃金体系を確立してゆくためにどのような施策を行ってゆくべきなのか、具体的に案を示して頂き、さまざまな角度から意見交換がなされ、噂・うずくまっていた村が少しずつ前に向かって動き始めていることを実感できたような気がします。教育行政に関する意見交換では、今現実の子育てに取り組んでいる世代が感じている悲壮感にも近い感覚を年代の離れた方々が果たしてどの程度共有することができているのか明確に感じ取るには至りませんでした。参加者&村長からは前向きな意見や提案がいくつも交わされ、少人数がゆえに不安を感じる反面には、少人数だからこそ可能な南牧村ならではの教育環境も実在している。も

とアピールするべき!』など参考とすべき意見がいくつもあったように思いますが、どのような方向性で村としての方角性を村民に示すことの必要性を大いに感じる場となりました。

南牧村で暮らすようになって一年半余りが経ちました。南牧村に来た理由として、村の雰囲気と自然、そして人柄に惹かれたからです。私には村の自然がとても素敵なものだと感じました。以前住んでいた場所では感じられない音・色・風がとても心地よいものだと思います。そして余分なものがない所がとても素敵だと感じています。生活は慣れて楽しく過ごしています。南牧村に来て以前の経験を生かしレストランを始めました。体験型農村レストラン「潺せせらぎ」です。潺は羽沢にある旧尾沢中学校を利用して営業し

ています。レストランは自分で校舎の一部を改装して店舗としており、店内には手作りの石窯もあります。メニューはピザ作り体験・野菜カレー・野菜チャイハン・コーヒーマスタードです。今後メニューを増やしていく予定です。また、野菜は自家製の無農薬栽培のものも使用しています。畑はまだ始めたばかりですが、色々な物を作って行きたいと考えています。体験メニューとして新割り、丸太切りなど色々な物もあります。南牧に来てから沢山の人々たちにお世話になりながら生活しています。これから村がもっと活気づいて行くように皆さんと頑張っていきたいと思っています。今後ともよろしくお願いたします。

<協議会からお願い>

現在、村内に移住を検討している来村者の方に紹介できる空家情報が不足しています。空家所有者の方や情報をお持ちの方からのご理解とご協力をお待ちしております。空家の有効利用にご理解とご協力を!

新・村人紹介

レストラン源 せせらぎ
小保方芳さん

高齡化率・少子化率全国1位。消滅可能性自治体第1位に挙げられている南牧村。分かつてはいるものの、当然頭にくるし残念な気持ちにさせられる。でも、これが現実。しかし、そんな南牧村でも外から見ると魅力に溢れているという。縁あってここの南牧村にやってきたIターン者も少しづつではあるが実際に増えている。木工家、体験型レストランの運営、民宿業、専業農家を目指す若者等々、幅広い分野で活躍している。この村に生まれ育った古くからの村民より、Iターン者など「よそ者」と呼ばれてきた新住民のほうが愛村心を持っているようにさえ思えてくる。

先日、東京の女性が南牧村で期間限定のカフェを開いて話題を呼んだ。新聞、テレビ、雑誌等にも多く取り上げられ、知る方も多いことだろうと思う。新たなことにチャレンジしようとする精神と、それを支えようと村内外から支援の手を差し伸べ繋がってゆく光景を見ることができた。こ

我・想・明・村

～生まれも育ちも、そしていまも南牧暮らし 南牧暮らし 男士より 寄稿～

5月には新村長が誕生した。俺は村長派だ、奴は反対派だ、なんて言葉もいまだに聞こえてくる。批判ばかりしているのではなく、今こそ、我々原住の村民も立ち上がり、皆で協力して村を考え、自分自身に出来ることは何だろうか?と、動き出すことが必要ではないだろうか。

の村の職員が何も無いとは言わない。その多くはコツコツと仕事をこなして、縁の下で南牧村を支えてくれているはずだ。心の中にはきっと村を思う気持ちが山のように溜まっているはずだと思っ

ている。しかし、多くの職員の表情からは、どうも考えているのかも見えてこない。職場として選んだこの村への思いが伝わってこない感じが少なく感じている。出来ない理由ばかりが先行する役人素質を脱ぎ捨て、チャレンジする勇気を出して欲しい。思いのこもった失敗を誰が責めるだろう。きっと多くの手が協力の手を差し伸べてくれると思う。

なんまぐ
山村ぐらし通信

2014(平成26)年11月発行
通巻第11号版(秋月号)

発行責任者: 神戸 広
問合せ: 南牧村役場総務部
村づくり・雇用推進課
電話 0274-87-2011(代表)

紙面編集: 協議会 広報班
発行元: 南牧山村ぐらし
支援協議会



協議会HPQRコード

協議会HP
<http://www.nanmoku.ne.jp/sansou/>
協議会活動ブログ
<http://nanmokusansonn.blogspot.jp/>

「ぼらあな」なんもく村

in 熊倉地区賭博場跡

むかしやあ〜さあ〜。こ
 こは博打(ぼくち)場が多
 かったんだよ。」「へえ〜
 なんだ。・・・」おめえ
 なんかしらねえだんべ。い
 まみてえにあそぶもなあ〜
 ねえからさあ、賭け事が大
 人の遊びだったんさあ」
 お〜〜ん・・・」



「熊倉の絶景から見える『ぼらあな』紅葉の見事さは最高ですよ。」

南牧村は、昔の隠れ姫街道・・・。行人や旅人が行き交い人々の通行拠点となつた場所。信州境の抜け道と、武州一秩父街道にも通じる。いわゆる群馬(土州)埼玉(武州)、長野(信州)山梨(甲州)とつながる、人や物資交流の往来路となり、大事な近道や抜け道だったので。星尾地区や熊倉地区などにはまだ当時の面影を残す場所がいくつも残っています。熊倉地区に残っているのが洞穴(ぼらあな)です。

26年度7〜9月空家問合件数

電話による問合せ計14件
 (7月 5件)
 (8月 4件)
 (9月 5件)

メール・手紙・FAXによる問合せ計5件
 (7月 2件)
 (8月 1件)
 (9月 2件)

来村空家物件訪問計7件
 (7月 2件)
 (8月 3件)
 (9月 2件)

村内発掘隊 神戸とみ子(特派員)

各部落には稲荷神社やちよつとした小屋などと共に、

通行人が雨を凌ぐ場所になったり、日が暮れたところからは大人たちの博打場になったりと大勢の人たちが暮らす山間地の知恵と生活ぶりがいくつかわかっています。おもしろくも不思議な発見ができる場所なのだと思います。空家を利用して、稲荷ま

『みんなで語り合うフォーラム』に参加して

9月13日(土)活性化センターを会場に、『みんなで語り合うフォーラム』(南牧村)をらびっ子の遊ぶ里へ〜と題し、村内外から約240名が集まり行われました。初めにスローライフ学会会長で元総務大臣の増田寛也氏の基調講演が行われ、現在日本の人口は1億2800万人、2040年には1億728万人、2060年には8674万人と今後40年余りの間に4000万人もの人口減が予想されることだ。人口減少が生じる理由は、各地域ひとつひとつ全部違うということだが、いったい40年後の南牧村は何人になってしまふのか?長谷川村長も挨拶の中で提言していたが、若い人達が働ける場所をつくり、村の人口が衰へて、それを村が



が面倒! 若い人に入ってもらいにはどうしたら良いか考えては?、南牧村ならではのインパクトのあるもの、たまに来るのは良いけど、

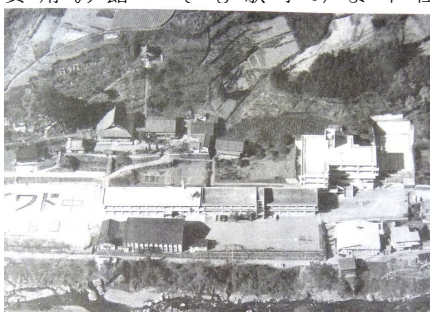
9月13日(土)活性化センターを会場に、『みんなで語り合うフォーラム』(南牧村)をらびっ子の遊ぶ里へ〜と題し、村内外から約240名が集まり行われました。初めにスローライフ学会会長で元総務大臣の増田寛也氏の基調講演が行われ、現在日本の人口は1億2800万人、2040年には1億728万人、2060年には8674万人と今後40年余りの間に4000万人もの人口減が予想されることだ。人口減少が生じる理由は、各地域ひとつひとつ全部違うということだが、いったい40年後の南牧村は何人になってしまふのか?長谷川村長も挨拶の中で提言していたが、若い人達が働ける場所をつくり、村の人口が衰へて、それを村が

将来、移住となると・・・と様々な意見が出されたが、ひとつひとつ前向きに考え、解決していかなければならないと感じた。かつて南牧村で営まれてきた生活の中で重要な要素であった絆、助け合いの精神というのをそのまま続けていくのは非常に難しくなってきた。そこに新しい人達が入ってくることにしている。そこに新しい人達が、こういうことについて色々な場で議論するということが地域を考えるといいことに繋がっていくのではないかと。若い人達が、田舎がキレイですね!川がキレイですね!空気がキレイですね!と、よく口にするので、『やあ南牧村に住みますか?』と聞く手もあがなかったらしいが、これがこの村を抱える現実の姿なのではないか。今の自分が抱える現実の姿なのではないか。今の自分が抱える現実の姿なのではないか。今の自分が抱える現実の姿なのではないか。

南牧村の歴史

警戸小・中学校校舎と校歌編

全体の感じはあまり変わりなく感じますが、建物はだいぶ変わりましたね。山の中腹まで畑として使われているのが分かります。今ではそこに赤い柱の通称「千原ドーム」や住宅があります。この写真を見ながら、警戸小学校・中学校の校歌を思い出した方も多いいのではないのでしょうか。また、南牧村民俗資料館(行く)と、南牧の小・中学校で活用されていた物や資



1980年警戸小・中学校上空ビュー



1970年代の校舎全景 (画像が粗くてすみません。)

料が見られます。あく懐かしい!というものが一杯ありますよ。現在の南牧小学校の校舎は、昭和54年5月に警戸小学校校舎として落成。警戸小学校は、平成

ありましたが統合し、平成17年4月より現在の南牧中学校として開校し、小中学校とも今年開校10周年となります。

緑はもえる山脈の学窓に迫りてそそりたつ仰ぎてわれらいまここに真理の道をたくましく学びのにわぞああ警戸成長ゆくわれら中学生

三年の月日集い合ひこの学舎に誓いつつ未来の力やしなわん理想は高く永遠に学びのにわぞああ警戸栄あるわれら中学生

役場の機構改革により山村暮らしに関する担当部署が変更になりましたのでお知らせします。10月1日より、総務部 村づくり・雇用推進課で行います。名前は変わりましたが、業務内容は引き続き同じに行っています。役場庁舎内では、1階の奥のほう、南牧の小遊三さんが座っているのですぐわかると思います。

お知らせです